

未来のダーウィンをめざせ!

2009年2月11日(水)~15日(日) / 3月20日(金)~29日(日)

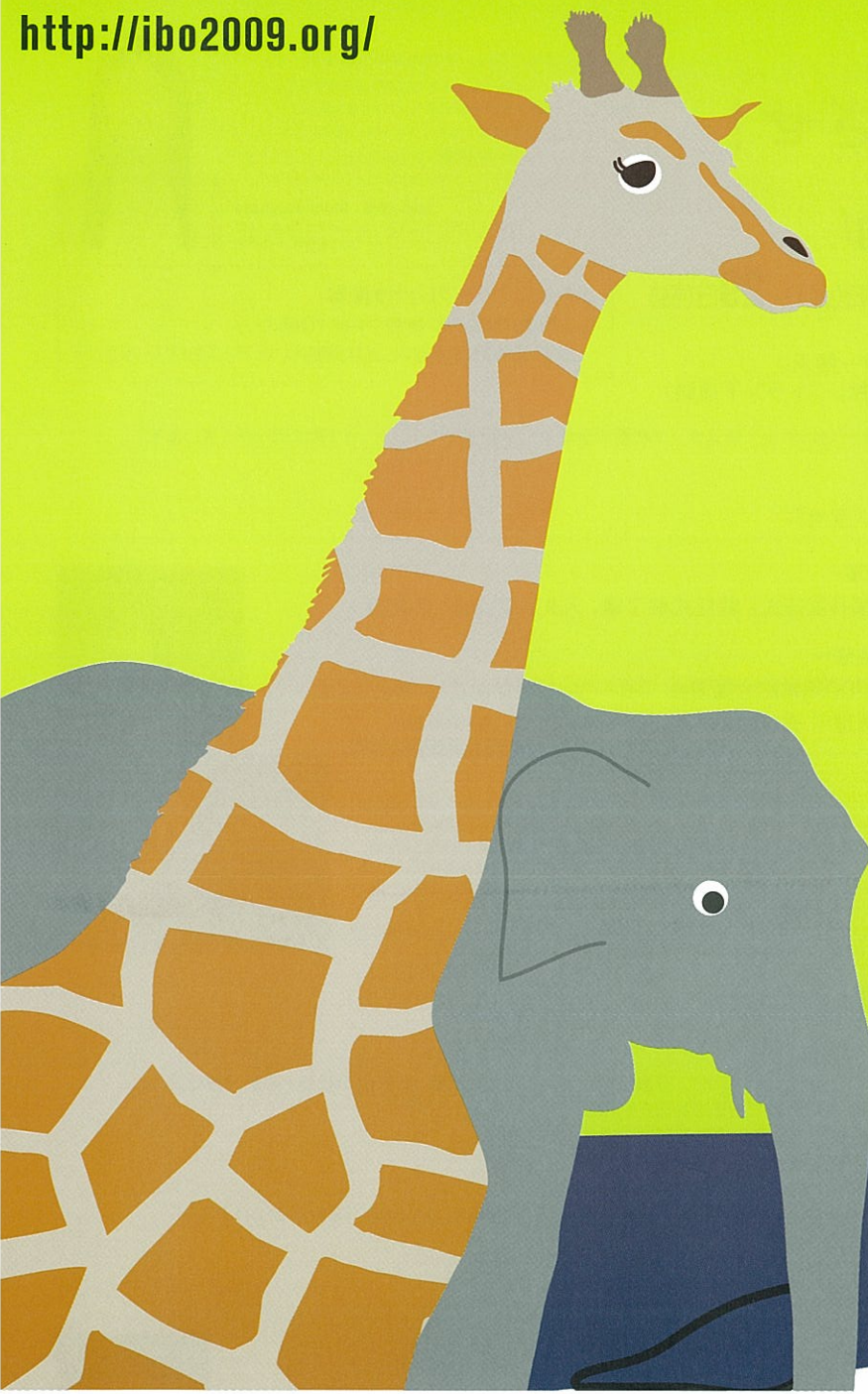
- 国立科学博物館 ◆ クイズラリー ◆ ポスター展示 (地球館レストラン下通路)
- ueno ZOO ◆ スタンプラリー (期間中の雨天時は中止)

2009年3月20日(金) ※上野動物園開園記念日(入園無料)

- ueno ZOO 表門エントランス 総合案内所脇 ◆ 11:00~『生物大使一日園長就任式』 生物大使: 忽那 汐里(くつなしり)
- 動物園ホール ~入場申込制~ ◆ 13:00~ ダーウィン生誕200周年記念講演会 『ダーウィンの見たこと、考えたこと』 講師: 長谷川 真理子 先生
総合研究大学院大学先端科学研究科教授
国際生物学オリンピック2009組織委員会委員
日本進化学会会長
- 『IBO2009日本代表によるトークショー』

2009年3月28日(土) ※(入場無料)

- NHK NHK広島放送センタービル1F ◆ 13:00~ 第20回国際生物学オリンピック記念講演会 『絶滅危惧種アホドリを救え!』 講師: 長谷川 博 先生
東邦大学理学部教授
京都大学野生動物研究センター兼任教授
- メディアプラザ ~入場申込制~ 『メダリストによるトークショー』 『生物チャレンジ2009』 ~IBO2010日本代表選考会~ 参加方法について発表



THE 20TH INTERNATIONAL BIOLOGY OLYMPIAD 2009 TSUKUBA JAPAN



第20回国際生物学オリンピック

主催: 国際生物学オリンピック2009組織委員会、筑波大学、日本科学技術振興財団
共催: 茨城県、つくば市、筑波研究学園都市交流協議会、つくば科学万博記念財団、国立科学博物館 特別協賛: 科学技術振興機構 協力: 俱進会

プレイベント共催: 恩賜上野動物園、広島大学 / 後援: 文部科学省、内閣府、外務省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、日本学術会議、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、日経新聞社、産経新聞社、中日新聞社、時事通信社、共同通信社、茨城新聞社、NHK、IBS茨城放送
常陽新聞、常陽リビング / 関連機関: 国際生物学オリンピック日本委員会、生物科学学会連合、日本科学オリンピック推進委員会 / 協力学協会: 社団法人日本解剖学会、社団法人日本植物学会、社団法人日本生化学会、社団法人日本生物工学会、社団法人日本動物学会、社団法人日本農芸化学会、社団法人日本薬学会、社団法人日本薬理学会、特定非営利活動法人日本分子生物学会、特定非営利活動法人日本免疫学会、日本遺伝学会、日本医学会、日本宇宙生物学会、日本古生物学会、日本植物生理学会、日本神経化学会、日本神経科学学会、日本進化学会、日本生態学会、日本生物教育学会、日本生物物理学会、日本藻類学会、日本農学会、日本発生生物学会、日本比較生理生化学会、日本比較内分分泌学会、日本微生物生態学会、日本防衛防衛学会、有限責任中間法人日本生理学会



田辺三菱製薬株式会社 / トヨタ自動車株式会社 / 小野薬品工業株式会社 株式会社ニチレイ 株式会社日清製粉グループ本社 シスメックス株式会社 社団法人日本動物学会 日清オイログループ株式会社 日本水産株式会社 林原グループ パナソニック株式会社 明治乳業株式会社 山崎製パン株式会社 / オムロン株式会社 株式会社エスアールエル 株式会社海洋バイオテクノロジ研究所 株式会社J-オイルミルズ 株式会社トミー精工 株式会社ナリシゲ 株式会社文英堂 株式会社ブルボン 株式会社堀場製作所 株式会社ヤクルト本社 北原商事株式会社 財団法人放射線影響協会 シマダヤ株式会社 社団法人日本理科教育振興協会 昭和産業株式会社 高砂香料工業株式会社 東京書籍株式会社 日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社 日本製粉株式会社 日本比較内分分泌学会 日本リポア株式会社 ファイザー株式会社 フジッコ株式会社 マルキン忠勇株式会社 丸美屋食品工業株式会社 美津野商事株式会社 株式会社ライフサイエンスマネジメント / 株式会社サイエンスサポート 株式会社高長 極東製薬工業株式会社 社団法人日本植物学会 特定非営利活動法人日本分子生物学会 特定非営利活動法人日本免疫学会 日本遺伝学会 日本宇宙生物学会 日本細胞生物学会 日本進化学会 日本神経化学会 日本発生生物学会 日本微生物生態学会 ヤマト電子株式会社 有限会社共進理工 / サプライヤー: アトー株式会社 オリオンバス株式会社 株式会社島津製作所 日立工機株式会社 (2009年1月5日現在)

第20回国際生物学オリンピック(IBO2009つくば)プレイベント

未来のダーウィンをめざせ!

～2009年ダーウィン生誕200周年～

～3/20と3/28は入場申込制～
申し込み方法など詳しい情報は

<http://ibo2009.org/>

みなさんこんにちは。生物大使の忽那汐里です。
今年の7月に、つくばで開催される国際生物学オリンピック。
わたしたちも地球上の「いきもの」について学びましょう!
そして、世界から参加するオリンピックの選手たちを
かいっぱい応援しましょう!



忽那 汐里 Shioli Kutsuna
1992年12月22日生まれ オーストラリア出身 A型
フジテレビ「メイちゃんの執事」に出演中

2009年2月11日(水)～15日(日) / 3月20日(金)～29日(日)



国立科学博物館

◆ クイズラリー ◆ ポスター展示
(地球館レストラン下通路)



◆ スタンプラリー(期間中の雨天時は中止) ※スタンプ制票の参加者には記念品をプレゼント(数に限りがございます)

※先着にてリーフレットを配布

上野動物園:キジ舎前(午前10時より)

科学博物館:総合案内、地球館案内、1Fディスカバーポケット

2009年3月20日(金)

※上野動物園開園記念日(入園無料)



表門エントランス 総合案内所脇

◆ 11:00～『生物大使一日園長就任式』就任式終了後、スタンプラリーを実施

動物園ホール ～入場申込制～

◆ 13:00～ ダーウィン生誕200周年記念講演会 『ダーウィンの見たこと、考えたこと』

講師:長谷川 真理子 先生 総合研究大学院大学先端科学研究科教授
国際生物学オリンピック2009組織委員会委員
日本進化学会会長



長谷川 真理子 先生

生き物は、大昔から今までずっと変わらずに存在してきたのか、それとも、時間がたつとともに、変化してきたのか?これが、進化に関する疑問である。変化したと考えるのが進化論。進化の考えは、18世紀ごろから少しずつ出てきたが、進化に関する生物学の確立には、イギリスのチャールズ・ダーウィンがもっとも大きな貢献をした。ダーウィンは、さまざまな証拠から自然選択の理論を考えたが、それは、現代進化論の基礎の一つになっている。それでは、ダーウィンは、進化の理論をどうやって考えたのか? 何を見つけたことが鍵となったのか? それには、若いころに世界一周の航海をしたことや、ハトの品種改良にかかわったこと、自分の家の庭で身近な生物についてたくさん観察を行ったことなどがすべてかかわっている。

進化を理解するには、さまざまな生物の多様性を知るとともに、地球の歴史全体についても知ることが必要である。ダーウィンの研究の足跡をたどるとともに、進化がわかると生き物の不思議がさらにおもしろくなることを解説したいと思う。

◆ 『IBO2009日本代表によるトークショー』



◇参加対象 …… 中学生以上(定員140名)

◇申込方法 …… 往復はがきに・催し名(国際生物学オリンピック プレイベント)・参加希望者全員の氏名・年齢・代表者の住所・電話番号を記入し、返信面に代表者の住所・氏名を明記のうえ、下記のあて先までお送りください。

【あて先】〒110-8711 台東区上野公園9-83 恩賜上野動物園「記念講演会」係

※応募者多数の場合は抽選となります。結果は応募者全員にお知らせ致します。

◇締切 …… 2009年3月10日(火)(消印有効)

◇お問い合わせ先 …… 上野動物園 電話03-3828-5171 (平日9:00-17:00) / (株)ジェイコム 電話03-5403-9300 (平日9:30~17:30)

2009年3月28日(土)

(入場無料)

NHK

メディアプラザ ～入場申込制～

広島放送センタービル1F

◆ 13:00～ 第20回国際生物学オリンピック記念講演会

『絶滅危惧種アホウドリを救え!』

講師:長谷川 博 先生 東邦大学理学部 教授
(京都大学野生動物研究センター・兼任教授)



長谷川 博 先生

大型の海鳥アホウドリは羽毛を採るために乱獲され、1949年には地球上から姿を消したと信じられた。しかし、1951年に伊豆諸島の最南部に位置する火山島の鳥島で、10羽ほど生き残って繁殖していることが確認され、アホウドリは「再発見」された。ほくは、大学院生だった1973年に、このアホウドリの繁殖状況を調査したイギリス人鳥類学者と偶然に出会って強い刺激を受け、アホウドリを絶滅の危機から救い、地球上に再生させるための研究を志した。3年後の1976年11月に初めて鳥島に近づいて船から観察し、77年3月には初上陸して、15羽のひなとその他に71羽の成鳥・若鳥を確認した。最初のときの繁殖つがい数は推定で42組、総個体数は約190羽だった。それから32年間、毎年欠かさず、秋と春に鳥島に渡り、繁殖つがい数と巣立ちひな数を調べ、繁殖状況を調査してきた。この基礎資料を分析し、繁殖成功率を引き上げるためのさまざまな保護計画を提案して、それを環境省や東京都、山階鳥類研究所と協力して実行に移してきた。2008年11月、繁殖つがい数は418組、総個体は約2100羽に回復した。繁殖つがい数は年率7.5%で指数関数的に増加しているため、鳥島のアホウドリ集団は2011年には500組、約2500羽以上になり、2020年には約1000組、およそ5000羽に回復すると推測される。いま、残念ながら、この世界にたくさん絶滅危惧種がいる。それらはまだ絶滅してはいない。まだ間に合う。科学的研究に基づいて保護計画を策定し、それを着実に実行すれば、それらを救うことができるのである。絶滅危惧種を救い、生物多様性を保全することは生物学者の重要な仕事の一つである。



◆ 14:30～ 『メダリストによるトークショー』

「生物チャレンジ2009」～IBO2010日本代表選考会～ 参加方法について発表

◇参加対象 …… 一般

◇申込方法 …… 往復はがきに・催し名(国際生物学オリンピック プレイベント)・参加希望者全員の氏名・年齢・代表者の住所・電話番号・このイベントを何で知ったかを記入し、返信面に代表者の住所・氏名を明記のうえ、下記のあて先までお送りください。

〒105-0011 東京都港区芝公園2-4-1 ダヴィンチ芝パークA館7階 (株)ジェイコム内「未来のダーウィンをめざせ!」係

※応募者多数の場合は抽選となります。結果は応募者全員にお知らせ致します。

◇締切 …… 2009年3月6日(金)(消印有効)

◇お問い合わせ先 …… 電話: 03-5403-9300 (平日9:30~17:30)

＜個人情報利用目的について＞

ご送付頂いた個人情報は、イベントの参加申込、参加者へのご連絡に必要な場合に使用します。なお、これらの範囲を超えて使用することはありません。

